SVCF 通信
2019. 2. 8.　Vol. 107

公益社団法人 福島原発行動隊
東京都千代田区神田淡路町1-21-7
静和ビル 1階A室　〒101-0063
Tel: 03-3255-5910　Fax: 03-3525-4811
Mail: svcf-admin@svcf.jp　Web: http://svcf.jp

でも、諦めはしない

第2回　福島県大熊町帰還困難区域内の家屋周辺草刈り作業に参加して

飯島　定幸（神奈川県・横浜市在住）

あれから、もう8年目。それとも、まだ8年目。どっちだろう？2019年1月13日、千葉県原木中山駅から安藤さんの軽自動車に便乗させて頂いた車中での、隣席に同乗された杉山さんからの挨拶代わり？の声かけ。

今回の行き先は、大熊町の帰還困難区域内のKさん宅とその隣のAさん宅。

Kさん宅敷地内の前回では刈り取れなかった竹雑草と、自給畑地に勝手に生え伸びたと云う木々と、今回初めての前隣のAさん宅内の竹雑草の刈り払い作業。

安藤さん、山田さん、杉山さんが草刈り機で竹雑草林を、加藤さんと私がノコギリで木々の伐採。“丁寧”？に隅々まで刈り払いをする。

各家屋周辺草茫々。溝口健二監督の雨月物語に映し出された廃屋敷の庭が思い起こされる。

その映像と違う光景は、徘徊しているイノシシが家屋内に「不法」侵入したために生じた破れ穴箇所を修繕した板張りの数々、そしてそのイノシシに掘り起こされた家屋前の畑地面にあちこちとある穴ボコ痕。そして、静寂。ただただ静寂。林・森・山中での静けさとは明らかに違う。周囲に家々は厳然として有る。でも、住人は居ないだろうなぁと実感できる。時折、鳥の声、しかし爽やかな鳴き声として感じることは無い。帰還困難区域だと云う先入観があるからか?

Kさん、Aさん達は、「必ず戻る意志と決意」を政府・東

▲作業前▼作業後、祠が見えてきた。

電に明らかにし、家屋周りを 3・11 前の風景に取り戻す作業を、自他共に行動で示すことでしかその覚悟を維持鼓舞できない。

その実践以外に、どうこの現実に立ち向かえよう？生活の営みを奪われた現実に…。

私はそのように受け止めた。

作業後の帰還困難区域内を通行中に、自動車窓から

周囲各戸の玄関へ続く入り口が鉄の柵で閉ざされている所を眺めていると誰とも無く、「江戸時代に改易、蟄居、閉門を言いつけられた武家屋敷を(TV)ドラマで見てるような(デジャブな)感覚で目の当たりにするのは何ともやりきれないなぁ」と。この状態を日常的に8年間見せつけられてきている人達の戻って来たいという気持ちが萎えないようにするには、相当に自分自身でメンタルを訓練してきた人でないとできないだろうなぁ。鼓舞し続けるのは…。

我が行動隊のメンバーも8年の間に高齢化が進んでいて、常識的に思いを馳せれば、重要な体力・気力・意欲・行動力・(金銭)も衰え始めている。 しかし、南海トラフやこれからの廃炉作業期間中でのリスク、運転中の原発の災害事故発生等への対応態勢はまだまだ実に現実味があり、喫緊ではSVCF事務局が日々努力されている富岡町との協力態勢(MLで逐次報告されているので参照)に呼応した動きをメンバー全体で取り組むには、私たちの初心のあの、激情に駆られた居ても立ってもいられない沸き立った気持ちを再度奮い起こさなければならない。

でも、この精神論では解決策にはならない。我が行動隊のメンバーに新しい層を、新しいシニアを呼び寄せねばならない。さてさて、どうやって？考えましょう。行動隊を続けながら。もう8年なのか、まだ8年なのか？それでも8年は経った。確かに。でも、諦めはしない。

第78回院内集会————

「原発被災地県　福島の復興」④

「福島第一原子力発電所の現状と今後の課題」報告

標記院内集会は2019年1月17日、参議院議員会館102会議室で、福島第一廃炉カンパニー・プレジデント兼廃炉・汚染水対策最高責任者の小野明氏を講師として開催されました。

約1時間半の講演ののち、イチエフの現状と課題をより深く理解する、30分を超える熱心な質疑が繰り広げられました。行動隊からの参加者は20名でした。

●○●講演の概要は講師が提供された資料参照●○●

http://svcf.jp/archives/7005(この資料は東京電力サイドの視点からではありますが、イチエフ廃炉について直近の全体状況を一つの資料でつかむには非常によくできた資料ですのでご一読をお勧めします)をご覧いただくとして、本報告では後半の質疑について報告します。

【質疑】(※報告者注:回答は全て小野講師です。

＜汚染水について＞

〈質問〉多核種除去設備(ALPS)のトリチウム以外の放射性物質の除去能力はいかほどのものか？

《回答》ゆっくり除去すればトリチウム以外の放射性物質は完全に除去できる。現時点で除去されずに残っているのは、敷地境界上の被ばく線量の評価値を1 mSv/y未満に抑えるという当面の目標を優先的に達成するために処理スピードを上

げていたため。

〈質問〉現在タンクで保管中の多核種除去設備処理水を再処理するとして、再処理後の水は海水に放出可能か？

《回答》トリチウムだけが残った処理水の処理方法については現在のところ、海洋への放出、蒸発、コンクリートに混ぜて固化した上での保管、地中への埋設、分離などの技術がある。それぞれ一長一短があり、国の検討の進捗を待っている。

〈質問〉トリチウム以外は完全に除去できたとして、海洋に放出するときはどのくらい希釈するのか？

《回答》法定基準では60000Bq/L未満だが、イチエフでの現行の放出基準1500Bq/L未満まで希釈することになるのではないか。

＜1号機オペレーションフロア上にあるガレキについて＞

〈質問〉1号機の原子炉建屋は地震に対する健全性が確保されているとして、1号機オペレーションフロア上にあるガレキは地震に対して安全な状態か？

《回答》ガレキについては地震に対する健全性は確保されていない。この問題を現在最も心配している。凍結、緩衝材の投入などの方法を検討している。また、仮に使用済み燃料プールから水が抜けても使用済み燃料が過熱することはないが、水による放射線の遮断は維持したいので、プールゲートのシールドの遮水性の確保も喫緊の課題として対応していく。

〈質問〉地震などによりガレキが落下した際への対応策はどうなっているのか？

《回答》飛散する放射性ダストについては監視装置を設置してあり、飛散の可能性が生じた時はこれも設置済みの散水装置によって飛散を抑制する。

＜3号機の使用済み燃料取り出し用のクレーン、燃料取扱機の不具合について＞

〈質問〉不具合に対する危険予知システムは組織的に働いていたのか？

《回答》初期のロードマップでは3号機の使用済み燃料の取り出しが2014～2015年に予定されており、これらの機材は、それに備えて2012年、当時唯一この関連の技術を有していた米国ウェスティングハウス社に発注し、納入され保管されていた。発注のあり方、品質管理について東京電力がもっと前面に出るべきであった。今後の廃炉作業では機材の製造について初めて関係を持つ海外企業に頼らざるを得ない場合もありうるので、発注のあり方、品質管理について東京電力が前面に出ていく。

＜2号機オペフロ上での作業により敷地境界における空気中放射性物質濃度のオペフロ評価値が昨年9月に上昇したことについて＞

〈質問〉表題について、昨年10月の廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第61回）に東京電力が提出した2本の資料において、評価式の問題性の指摘と合わせて「評価上の放出量が増加したもの」と表現されていたが、今後の追加的放出が生じる可能性がある作業のためにも、これは「評価上の放出量が（過大に）増加したもの」と表現すべきではなかっ

たか？

《回答》言葉の問題について不注意であり、よい指摘をいただいた。ただ当該の作業時、原子炉建屋からの排気設備フィルターの入り口では放射性ダストの上昇は見られても出口では検知されなかったので、放射性ダストの原子炉建屋からの追加的放出はなかったと思う。

評価の方法は難しく改良を検討しているところであり、今後国や原子力規制委員会とも協議することになるのではないか。

しかし、原子炉建屋に完全な気密性はないので、放射性ダストの追加的放出による外の環境への影響は評価しておく必要はある。

＜燃料デブリの取り出し準備について＞

〈質問〉デブリの位置・形状について事故進展解析コード（MAAP）で解析しているが、なぜ、ミュオン測定法（※報告者注：宇宙線ミュオンを用いたレントゲン撮影のような透視技術）によって格納容器の底部の堆積物を見ないのか？

《回答》ミュオン測定法は溶融燃料の存在は確認できても正確な形状が分かるほどの精度はない。現在、格納容器内部にカメラを入れ、デブリの位置・形状について、より詳しい情報が得られるようになってきているので、今後ミュオン測定法を用いることはないだろう。

〈質問〉事故進展解析コード（MAAP）ではデブリをコンクリートと溶融燃料の混合物であると前提しているが、実際の堆積物では鉄筋も混じっており、鉄の熱伝導率の高さが考慮されていないと思うがどうか？

《回答》MAAPは炉内の状況をシンプルにモデル化しているので、それによって得られる情報はあくまで推定である。他方、MAAPは国際的な協力で日々改良を重ねており、今後もイチエフにおいてMAAPによる解析と実際に得られた炉内の状況を照らし合わせていき、精度の向上に寄与したい。

〈質問〉燃料デブリの取り出し方法について、上アクセス・横アクセスは検討されてきているが、地下からのアクセスはいかがか？

《回答》初期にはアイディアとしてあったが、地下には様々なものが埋設されており、現時点では有力なアクセス方法としては考えていない。ただ燃料デブリの取り出しは数十年単位の長期の過程であり、その中では見直される可能性は排除しない。

講師提供資料51ページに示された“TEPCO CUUSOO”という最近開設されたサイトで、廃炉にかかわるさまざまな技術の公募を始めた。

＜作業員について＞

〈質問〉現在の約4000人の作業員はどのような仕事をしているのか？

《回答》ALPS処理水を保管するタンクをフランジ型から溶接型に更新する作業、増設雑固体廃棄物焼却設備の建設等に多くの作業員の方々が当たっている。遠隔操作が主で人数的には少数だが、使用済み燃料・燃料デブリ取り出し準備に

当たっている人もいる。また4000人の中には700～800人の東電社員も含まれている。

＜燃料デブリ取り出しの可能性について＞

〈質問〉TMI-Ⅱ（※報告者注：1979年に原子炉圧力容器内でのメルトダウン事故を起こした米スリーマイルアイランド原子力発電所2号機）とは異なり、デブリが原子炉格納容器までメルトスルーした福島第一原子力発電所でデブリの回収は果たしてできるのか？　将来を想定した直近の作業に切り替えていくべきではないか？

《回答》できるかできないかはやってみなければ分からない。

現在のところ、取り出さないという選択肢は構えていない。

世界初の非冠水での廃炉作業であり、放射能の封じ込め、取り出したデブリの保管等さまざまな困難が生じるであろうが、一つ一つ技術的に詰めていきたい。

//

次回のお知らせです。大熊町でふるさと被災者の支援活動に当たっている NPO ＜大熊町ふるさと応援隊＞代表渡部千恵子さんに避難先の三春町からお越しいただき、「避難生活を続けながら仲間と取り組んでいる応援活動を語っていただきます。

2018 年 10 月から行っているシリーズ講演「原発被災地県 福島の復興」の5回目です。

公益社団法人 福島原発行動隊

第 79 回院内集会

「ふるさとを応援する」

日 時 2 月 14 日(木曜)11:00-13:00

会 場 参議院議員会館一階 102 号室

講 師 渡部千恵子/NPO ＜大熊町ふるさと応援隊＞代表

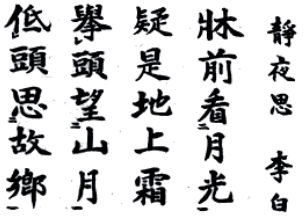
//

寄稿

【詩吟と私】

家森 健

小津安二郎監督作品「彼岸花」があります。その映画中、同窓会に集まった卒業生で、名優笠智衆が「楠木正行、如意輪堂の壁板に辞世を書するの図に題す」を吟じるシーンがある。このシーンを観て、詩吟に興味をもったのが若い頃です。後年、詩吟教室に通うようになるとは思ってもみなかったものの、 一昨年 10 月から詩吟教室に通う。詩吟にもいろいろ流派があるようで、全国津々浦々で様々な流派が活動しています。とかく詩吟といえば、「あぁあの“べんせい しゅく しゅく”のあれかぁ」と言われますが、最近は俳句、新体詩、カールブッセの詩なども吟じるのです。



もちろん基本は漢詩で七言絶句、五言絶句です。李白の「静夜思」などその代表格といわれています。子供の頃、この漢詩を習ったが意味するところがよく分からなかった。が、この歳になると、酒好きの李白翁の心中を理解できるようになりました。

「頭を挙げて 山月を望み 頭を低れて 故郷を思う」の心境が分かり合えます。最近の傾向として歌謡詩吟が一般受けし易く、例えば「白虎隊」や「武田節」などが歌の合間に吟じられます。

詩吟は丹田から声を出すことと言われるが、いまだその域に達しない。丹田の意味が体に浸み込んでいません。腹式呼吸、これまた難しいのです。横隔膜を上下に動かせ、左右に広げろと言われても思うようにならず。

ともかく、人前で吟じないと腕が上がらないといわれています ので、機会さえあれば人前にて吟じるようにしています。

詩吟は誤嚥防止にもよろしいようです。ちなみに李白翁は 61 歳没、小津安二郎監督 60 歳没です。馬齢を重ねて、もうすでに彼らの歳を越して生きています。現在の日本は高齢化・少子化社会でもあり吟者も高齢となり、若い吟者の育成が望まれるところです。そうしないと日本の伝統文化の継承が厳しくなります。

行動隊事務局からお知らせ etc

▽第80回院内集会「原発被災地県　福島の復興」⑥

講演者:米澤朋通　復興庁参事官(調査・調整班)

日　時:3月28日(木)午前 11 時～午後 1 時

会　場:参議院議員会館内会議室(2月 28 日に確定)

▽3月の福島での行動について

2018 年末、福島県川内村のぶどう園(「かわうちワイン株式会社」)で育成中のぶどう樹を凍害から守るための越冬防護作業を行いました。年明け間もなく同ぶどう園の遠藤公明(しげあき)園長から、暖かくなる春に向けてその防護被膜のはぎ取り作業の支援要請がありました。

※参加の意思がございましたら事務局までご連絡ください。確定でなくても結構です。

福島県在住の方々の参加を特に期待しています。

●作業:ぶどう園でのぶどう樹手入れ。

●作業人員:5-8 人

川内村に赴いて三日目の 3 月 21 日(木曜)は、お彼岸の中日でぶどう園作業は休みとなります。この日午前中は大熊町に向かい、帰還困難区域内の被災/避難者住宅の保守作業を行います。

▽事務局連絡会議のスケジュール

2月 15 日(金)、22 日(金)、28 日(木曜)

▽「みんなで創る“SVCF 通信”」をめざしています。ぜひ、原稿や写真などを投稿してください。よろしくお願いいたします。

▽富岡町のみなさまへの呼び掛けポスター(案)が出来上がり富岡町役場、富岡町社会福祉協議会と最終調整を行っています。

●「行動隊」の事務所案内図